

新任薬剤師研修会に参加して

国立国際医療研究センター国府台病院 薬剤部 今井 良

出身大学：帝京大学（平成27年）

興味のある分野 精神医療 チーム医療

平成27年3月に帝京大学を卒業し、4月に国立国際医療研究センター国府台病院に採用されました。採用から3ヶ月が経過し、ようやく環境に慣れてきました。この3ヶ月で調剤業務や病棟業務、当直などの様々な業務を行うことができました。業務を通じ、少しずつ薬剤師の自覚が芽生えると同時に、自身の力不足を日々痛感しています。6月には、第19回新任薬剤師研修会に参加させていただきました。

新人研修では、グループ研修や医療安全についての講演がありました。グループ研修で印象に残ったことは、輪を繋げるグループワークです。これは、制限時間内に班員と協力し、紙とはさみ、セロハンテープを使用し、輪を作り、それを繋げていくというものです。徐々に難易度が上がり、作業中に片手しか使ってはいけない、会話をしてはいけないなどの条件が課されます。このグループワークで重要なことは、話し合いをし役割分担を行うことです。漫然と作業を行うと、一人一人が自分の役割がわからずに、作業効率が下がってしまいます。よって、役割分担をすると、自分の行うべき作業が明確になり、それぞれの作業が早くなります。また、それぞれの作業を得意な人が行うことも重要です。例えば、束になった紙をはさみで切ることは力が必要なため、男性が担当し、紙を繋げる作業は手先が器用な女性が担当すると効率が良いです。このことはチーム医療に通じると感じました。病院では、医師や看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士など、様々な業種がチームとなり、それぞれの専門知識を生かし患者の治療に貢献しています。薬剤師がチームの中で何をすべきかを他職種との話し合いを通じて明確することにより、チームの中で役割を果たす

ことができると考えています。また、チームに貢献するために薬の情報を提供するには、日々知識に磨きをかけなければならぬと感じました。

医療安全の講演で印象に残ったことは、人によって見え方が違う絵です。この絵は、見え方が若い女性と高齢の女性の2パターンあります。私は、高齢の女性にしか見えませんでした。しかし、別の見え方があると言われ、実際にそう見えた時、感動を覚えました。このことより、医療の現場において、人によって見え方や考え方が違うことを理解することは大切だと感じました。実際に自分の視点で状況を判断してミスに繋がったことが何度かありました。相手が自分とは異なる考え方を持っている可能性があることを想定し、自分の考えが思い込みではないかを一度自分に問うことが必要だと考えました。

今回の新人研修では、現場で活躍されている先生方と意見交換をすることができたり、同期の仲間と触れ合う機会となり、多くの刺激を受けることができました。また、医療安全について実践的な知識を得ることができ、大きな収穫となりました。今後は研修で学んだことを現場で生かし、薬剤師として患者の治療に貢献したいと考えています。また、指導してくださった先生方のような信頼される薬剤師になれるよう、日々自己研鑽を積みたいと考えています。

最後になりましたが、今回の研修会を企画・運営してくださった先生方、ご講演をしてくださった先生方、グループ研修の際に意見を下さった先生方、研修に参加させて下さった国立国際医療研究センター国府台病院の先生方に厚く御礼申し上げます。